

令和4年度第2回一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

- 1 会議名 令和4年度第2回一関市まち・ひと・しごと創生有識者会議
- 2 開催日時 令和4年11月18日（金）午前10時から午前11時まで
- 3 開催場所 一関市役所 3階 特別会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 岩本幸一委員、永井春樹委員、中机純子委員、福岡和樹委員、堀籠義裕委員、三浦孝浩委員
 - ※ オンライン参加 熊谷志江委員、佐々木雅則委員、鈴木明宏委員、中芝浩美委員、船山賢治委員
 - ※ 欠席者 大崎望美委員、佐藤佳織委員、滝上亜寿香委員、野村勉委員、橋本華恵委員
 - (2) 事務局 鈴木淳市長公室長、菅原稔市長公室次長兼政策企画課長、鈴木敏宏政策企画課長補佐兼政策推進係長、渡辺苑子政策企画課主任主事、熊谷尚孝政策企画課主任主事
- 5 議題
 - (1) 総合戦略基本目標及び重要業績評価指標の令和3年度末時点の状況について
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者の数 0人
- 8 議事内容
 - (1) 総合戦略基本目標及び重要業績評価指標の令和3年度末時点の状況について
事務局から資料No.1及び資料No.2に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。
委員 資料2の1ページ目の(4)新しい人の流れの創出について、東京から地方への話をよく聞くが、移住者は確実に増えたという認識でよいか。
事務局 令和3年度実績値のとおり、増えている状況である。
委員 東京圏からの移住者になるのか。
事務局 出身地までは担当課で把握していない。当市に縁もゆかりもない方が移住してきた例もある。また、前に移住してきた方の声を聞き実績に結びついてきていると思っている。
委員 移住するにあたり働く場のサポートはあるのか。
事務局 当市で設置している移住コーディネーターが中心となり、事前相談など対応している状況である。
委員 移住者は、勤務者が多いのか、自営業が多いのか。

事務局 内訳は把握していない状況である。

委員 資料2の3ページ目の農商工連携開発事業費補助金活用による6次産業化商品開発件数について、6次産業は農業や農家を知る方法であり、進めてほしい。特に遠野市では、エゴマ関係の商品をふるさと納税の返礼品にしている事例もある。農家も自分達が育てた作物が加工されて商品として販売されると、かなり意欲がわいてくる。もっと商品件数を増やしてほしい。

委員 資料2の2ページ目の基本目標3のバス、電車、自家用車を使って1人で外出している高齢者の割合について、健康でバスや電車を利用する割合が高いことはよいと思うが、自家用車の場合は高齢ドライバーの問題も有り、どのような考えでこの指標を設定したのか。

事務局 健康長寿の観点でこの指標を設定している。

委員 資料1の2ページ目の評価区分について、基本目標の1はCやDが多いが、基本目標3はAやBが多くなっている。人の流れや稼ぐ力といった日常的な人の動きを伴うようなものは、進めづらかったのではないかと思う。その一方で、地域に暮らしている方の暮らしを支えるための基盤整備については、総体的に進めることができた部分であると受け止めた。そのうえで、新しい人の流れの創出の評価区分では、CとDが多いのに資料2の1ページ目にある副指標は実績値を上回っていることが気になる。CとDは資料2の6ページ目の関係人口や交流人口、移住・定住の促進の評価を分析して多くなっているということか。

事務局 そのとおりである。

委員 新しい人の流れの創出については、これらの取組以外の要素が多く副指標が目標を上回ったのか。

事務局 副指標と重要業績評価指標では、分析要素が異なっている。

委員 資料2の6ページ目の空き店舗入居数について、対象になる空き店舗はどれくらいあるのか。

事務局 確認し、お知らせする。

委員 資料2の9ページ目の拠点間を結ぶ路線バスの路線数について、バスを運行する際の人手不足が全国的に問題となっている。その状況はいかがか。

事務局 数年前の話になるが、岩手県交通から運転手が不足しており、路線の維持が困難になってきているとのことであった。今回の令和3年度実績値に対する評価に記載している千厩花泉線についてが、即それだけの成果ではなく、様々な理由があると思う。いずれ、以前、岩手県交通から運転手の人手不足の話は受けていたところである。

委員 特定保健指導実施率について、全体を見渡して一番達成が難しそうな指標である。健康診断や人間ドックを受けて、特定保健指導だけでは、そんなにニーズがないと思われるが、目標が高すぎることはないか。

事務局 特定健診受診率も同様であるが、ここで目標としている数値は、国で設定している目標に合わせているものである。

委員 資料2の5ページ目の新規高卒者の管内就職率について、千厩高校では例年に比べて地元就職がかなり増えた。新型コロナウイルス感染症の影響で、県外を希望している生徒がかなり減っている。新型コロナウイルス感染症が収束した状況下で、どのように高校生に地元企業の魅力を伝えていくのか、考えを教えてください。高校生は東京の企業に魅力を感じているようである。

事務局 以前から取り組んでいるが、市内企業の紹介やマッチングの機会などを行っている。市内にどのような企業があるのか高校生に知ってもらう機会を増やしていくことや、企業からも積極的にPRしていただく機会を創出していくことが大事である。また、地元を知っていただく機会もあわせて取り組んでいくことは大事である。人とのつながりから地元に残ることもあるので、今後必要に応じて取り組んでいくべきと考えている。

事務局 地元企業を知る取組は商工労働部で行っているが、毎年、予算要求において検討し新しい事業に結びついているものもある。今年度から市長が、一関市と東京圏で生活した場合の生涯賃金や家賃などを比較し、高校を卒業し就職して東京方面を選択することもあるが、30歳近くになり、彼氏彼女ができたなら一緒にこちらに戻ってきてほしいという内容の講話を、全高校で行いたいと取り組んでいるところである。

9 担当課 市長公室政策企画課